

おうえいいしとう ぼ ひ
応永石塔婆碑

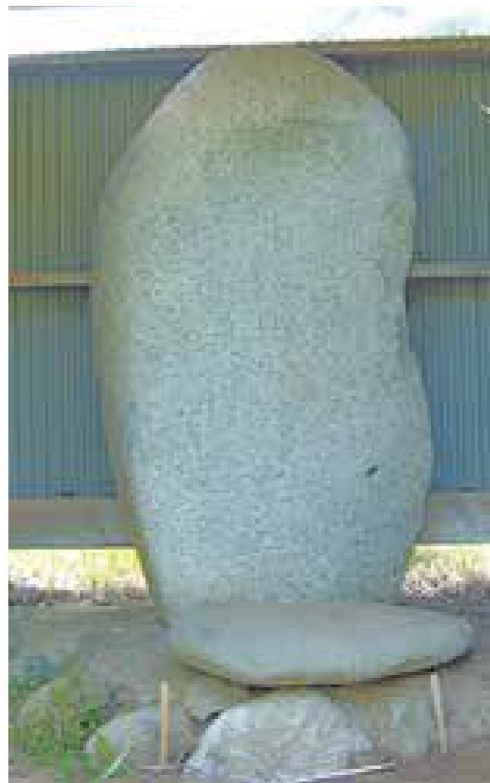
◇ 指定日 昭和51年4月21日

◇ 所在地 腹帯

◇ 所有者 個人

この石塔婆碑の上半部には、七つの梵字^{ぼんじ}が刻まれています。中央の梵字「バク」は仏教の開祖である釈迦如来^{しゃかにょらい}を表し、これを取り囲んで地蔵菩薩^{じぞうぼさつ}を表す六つの梵字が刻まれています。この地蔵菩薩は六道（地獄、餓鬼、畜生、修羅、人、天）において救済に現れるという六地蔵信仰を表しています。

梵字の下には、「^{おうえいだいさんひのえね}応永第三丙子七月十一日」の記年銘と、「^{しょうぼうげんぞうねはんみょうしん}正法眼藏涅槃妙心」という仏法の教えが刻まれています。こうした形態の石碑は、一般的には板碑^{いたび}や石塔婆といわれ、死者や先祖の供養碑です。この碑の背後の山は腹帯館になっており、この館跡にゆかりのある碑と考えられます。



高さ 125cm 幅 50cm 厚さ 20cm

地蔵	地蔵	地蔵
釈迦如来	地蔵	正法眼藏
地蔵	地蔵	應永第三 七月十一日
涅槃妙心	子	丙